

戸籍の窓口

(敬称略)

結婚

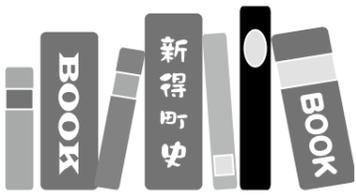
森 啓道 ♡ 松山 那美 北新得区

おくやみ

森藤由佳理	(35)	4/24	日	の	出	会
小林安次郎	(89)	5/ 1	ひ	ば	り	会
三浦 フミ	(97)	5/ 3	朝	日	の	会
米田 洋	(76)	5/ 4	春	陽	会	
小林 秀雄	(77)	5/12	北	星	会	
中平 スエ	(89)	5/12	新	進	会	
戸塚 常吉	(87)	5/14	栄	和	町	
藤岡 瑛一	(88)	5/15	昭	1	区	
太田 政夫	(89)	5/26	1	1	区	
小笠原知新	(99)	5/27	第	2	新	
佐藤おまつ	(91)	5/27	1	0	進	
阿部ミサヲ	(95)	5/28	1	0	区	



「姉・米原万里」井上ユリ



図書館だより

詳しい情報などは町ホームページの図書館コーナーをご覧ください。

「姉・米原万里」

井上ユリ

プラハでのソビエト学校時代を共に過ごし、最後まで近くで看取った妹、井上ユリ氏(故・井上ひさし夫人)が綴る、姉・米原万里の思い出。ロシア語通訳であり、その体験を生かして綴ったエッセイやノンフィクションで読売文学賞、大宅壮一ノンフィクション賞を受賞した米原万里氏は、食べることが大好きだった。プラハの小学校時代、レーニンの映画を観ては一緒にじゃがいもと卵をゆでて貪り、椎名誠を読んで時間差でカツ丼を食べに走り、姉・万里の思い出はいつも食べ物と分かちがたく結びついている。2016年5月で没後10年となる米原万里の著作を振り返りつつ、新たなエピソードを紹介するユニークな回想録。家族の蔵出し写真も多数収録。

新着図書

- 一般書
 - イラストで見る昭和の消えた仕事図鑑 (澤宮 優)
 - 野鳥の呼び名事典 (大橋弘二)
 - 重なる、暮らし (内田彩仍)
 - エコな生活 (マキ)
 - 買わないおしゃれ (Mパターン研究所)
 - おいしい自家製おつけもの (フルタニマサエ)
 - なんにもない部屋の暮らしかた (ゆるりまい)
 - 人間消失殺人事件 (赤川次郎)
 - ツバキ文具店 (小川 糸)
- 児童書
 - おぼけやさん6 (おかべりか)
 - 少年たちの戦場 (那須正幹)
 - ウミガメものがたり (鈴木まもる)
 - ちよう (今森光彦)
 - おならしりとり (ツベラツペラ)
- オレンジシルク (神田 茜)
- 大岩壁 (笹本稜平)
- 求愛 (瀬戸内寂聴)
- 娘役 (中山可穂)
- 秋霜 (葉室 麟)
- ポイズンドクター・ホーリー・マザー (湊かなえ)

善意のこころ

(敬称略)

指定寄付

- 沢口忠義 (宮崎県) ふるさと思いやり基金に2万1千円
- 帯広信用金庫 (増田正二理事長) 図書館用図書購入費として15万円

あなたの声をお聞かせください!

町政への意見や質問、暮らしの中で感じていることや疑問に思っていること、広報紙を読んだ感想や特集してほしいことなど気軽にお聞かせください。まちづくりレター(5月号折込、次回8月広報折込)、Eメール、FAX(裏表紙記載)で受け付けています。後日回答いたしますので、住所、氏名、性別、年齢、電話番号を必ず明記してください。
*匿名での投稿はご遠慮ください。

～有料広告を募集しています～

あなたのお店のコマースシャルをしてみませんか? このスペース(45cm×88cm・2枠)を広告用の枠として開放していますので、ぜひご利用ください。詳しくはお知らせしんとく4月号や、町ホームページ、または広報広聴係(64-0521)にご相談ください。掲載料は1回2,500円です。※申し込みが2件を超える場合は、抽選となります。また、申請書の提出等ありますので、ご相談はお早めに!



自宅の庭には、浦山さんが丹念に育てたたくさんのお花が咲き誇っている

顔のふるさと

No.411

これからも元気に今できていることを持続していきたい

「じつと座っているのが嫌で、体を動かしてほしくないと落ち着かない。ご飯を食べたらすぐ庭に出て、花の世話をしているよ。」と笑いながら話すのは、自宅の庭にたくさんのお花を咲かせている浦山さん。浦山さんは、香川県綾歌郡綾歌町(現在の丸亀市綾歌町)で農業を営む家庭に生まれ、5人きょうだいの長男として育った。「米や麦、たばこなんかも作っていたけど、こっちは農家と違って、畑も小さいし、一反あつたら一番大きいくらいで、この農家も小さい田んぼばかりだったよ。集落には店が数店しかなかったから、行商の人が来たりもしていたね。自分も小さい頃は、愛媛から煮干しを持ってこくる人がいて、こちらで作った米と物々交換したりもしていたよ」と懐かしそうに話した。

隣の飯山農業学校を卒業後、地元製粉製麺会社に就職し、機械整備を主に担当した。

同じ高校に在学し、隣町に住んでいた初子さんと結婚し一男一女に恵まれた。「同じ高校に通ってはいたけど、学年が2つ違うし、全校生徒が1000人くらいいたから、顔見知りではなかった。卒業後、床屋で会ったのがきっかけで結婚してね」と初子さんと照れ笑いしながら話した。

昭和50年に、思わぬ形で四国から北海道に渡るようになった。「働いていた会社に、旭川の業者が中古の機械を買いに来てね。その機械はこれから創業する新得物産に設置するつもりで、機械の取り付けをするために、昭和49年に機械と一緒に自分も北海道に送られちゃったよ。その時は、まだ工場には上屋しかなくて、風が強いし壁が無いから寒くてね。まだ機械の取り付けに時間的な余裕があるなら、来年の暖かくなったら取り付けしようやってお願いたよ」と笑いながら話した。「結局、その時はこちに2、3日いて、四国に帰ったんだけど、新得物産の社長に、これから創業するにあたって、製造する人や販売する人など経験者がいないから、うちの会社に来てくれないかと言われてね。妻に相談したら「お父さん行くなら一緒に行くよ」と言ってくれたので、会社の創業も7月だったし、家族4人で子供達が夏休みの時に引っ越してきたんだよね」と移住してきた時のこと



浦山 さん (77歳) 広和会

を話す。3年間勤めた後、人の縁や空き工場物件のタイミングなどもあり、製粉業の瀬戸内商事を独立開業し、二十数年間忙しく働いた。65歳の時に、息子に家業を任せ、時間ができたのをきっかけに花を育て始めた。「一本買ってきて、それを株分けして増やしているからね。これは面白いよ」と楽しげに話す横から初子さんが「私にあまり増やさないでって、いつも怒られているんです」と笑いながら話せば、「冬になると鉢物の花を自分の部屋に入れているんだけど、そのたくさん鉢物に囲まれて寝てるから、そりゃもう幸せさ」と浦山さんはニコニコしながら幸せそうに話した。趣味は花を育てる以外にも、カラオケや夏はゴルフ、冬はボーリングなど趣味の幅も広い。四国にいる時からやっていたボーリングは、帯広まで出かけているという。

家の居間の壁には、娘さん夫婦からプレゼントされた結婚式記念で撮影した写真が飾られていた。初子さんはウエディングドレス、浦山さんはタキシード姿。結婚50周年で初めて着たウエディングドレスとタキシード姿で、娘夫婦と孫に囲まれて写っている2人の表情には幸せが溢れていた。